長洲町立長洲小学校　校長便り　No.１４

みんなの居場所

裏面の話題

みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、諺、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和４年６月６日(月)

【愛語録】「失敗しないことをいつも最優先に考えて行動していくと、
無意識のうちに徐々に失敗していくともいえる。」　佐々木 直彦（コンサルタント）氏の言葉

子供達に伝えてきたこと

「ＴＰＯを弁える」という言葉を聞いたことがあることと思います。ＴＰＯすなわち、Time（時間）、Place（場所）、Occasion（場合。Opportunity と使われることもある。）の頭文字をとって、時と場所、場合に応じた方法・態度・服装等の使い分けを意味する言葉です。

学校という場所では、それに応じたＴＰＯがあります。先生方に対する言葉遣い、友達同士での立ち居振る舞い、特別教室の使い方等がそうです。学校は社会的、公的な場所ですからそれができなければなりません。

これらの中で最近気になるのは、先生方に対する言葉遣いです。目上の人に対する言葉遣いがきちんとできるということは、将来の子ども達にとっても有益です。しかもこの頃、相手によって態度を変える子も多いような気がしています。「相手によって態度を変える」という行為は、人として最低な行為と言えます。この様な行為は差別ともとることもできます。言動の背景を考えれば自明なことです。私は子ども達と話すときに、休み時間であっても給食時間であっても、楽しい場面であっても、大人である私に対しての言葉遣いは、その場で指導するようにしています。長洲小学校の子ども達はその都度、正しい言葉遣いに変えてくれて、その度に笑顔が生まれます。私達大人が正しい、美しい言動を心がけて普段の生活を心がけていかなければなりませんね。

《雑感》陰口、悪口、噂話

小学校中学年位からの特徴と言いますか、子ども達は仲のよい気の合う友だちと「グループ」を作って、休み時間等に談笑します。どちらかというと女子の方にこの傾向が強いようです。本当に楽しい、ためになる話ならいいのですが、その内容が悪口や陰口、噂話はいけません。私自身、担任時代に自分を戒めるために、子ども達にこんな話をしていました。

「陰口や悪口、噂話は、聞いている方も疲れるんだよね。エネルギー使う！　気分も悪い。しかも陰口や悪口、噂話は、必ず自分に降りかかってくるからね。逆に人をほめる話はいいねぇ。喋った後も何か気分がいい。少なくとも私は両親から、陰口や悪口、噂話は絶対にするな、人が寄って来なくなるそって言われてたからなぁ。こうも言ってた、人の意見は素直に受け入れなさい、特に指摘や批判については〝ありがとう〟という気持ちを持って聞きなさい。」

今になってみれば「その通り！」って思います。他愛のない話題の中で、他人の批判ばかりする人の話は、聞く側としては苦痛です。他人への批判は必ず自分に降りかかってきます。その逆も真なり、自分の価値を上げるために周囲を誉めましょう。そして、素直さ謙虚さは重要です。そして、ありがとうという素直な気持ちで自分を成長させたいものです。

シリーズ「自分を語る」#１４

６年生ともなると、色々な事に興味をもち始めます。私が5年生から6年生に進級する頃が芸能界にすごく活気があった時期で、最も印象に残っているのは山口百恵さんとか西城秀樹さんとか、更に人気絶頂にあったのはピンクレディーでしょうか。私も6年生の頃のお楽しみ会で、「UFO」を男2人で歌ったことを思い出します。皆が楽しむ姿を見ることが好きだったようです。思春期の入り口のこの時期、友だちは異性が気になり始めた様子で、周りがそういう雰囲気になっていって自分も巻き込まれていった時期です。（ちなみに、私の初恋は中2の頃でした…）修学旅行と運動会がそのきっかけだったような気がします。おぼろげな記憶ですが、修学旅行の時、担任の先生に女の子と一緒に写真を撮ってもらったような気がしますし、運動会では応援団に参加することで男女が急速にお互いを意識するようになったようでした。楽しい小学生時代を送った私ですが、少しずつ漠然とした将来が見え隠れし、不安感も芽をもたげた時代でもあります。

そんな中に、将来の夢についても考え始めた時期でもあります。私の子どもの頃の夢の一つ、それはパイロットになることでした。毎年、陸上自衛隊第8師団の記念のイベントで、自衛隊のＦ15（通称〝イーグル〟）戦闘機が飛んでくるのですが、戦闘機はあっという間に通過、みんなため息をついていました。最近はコロナウイルスの影響でイベントは中止になっています、残念！

平成29年、熊本城復興祈念のイベントで、熊本城上空に航空自衛隊のアクロバット飛行チーム「ブルーインパルス」が飛来しました。私はたまたまその時、藤園中学校運動場で息子達の野球の試合を見ていて、間近で見ることができました。平成19年も、築城四百年記念で飛んできましたね。とにかく言葉にならないほどのかっこよさでした。憧れというか夢のシンボルというか、小さい頃はパイロットとかに憧れる時がありませんか？　50歳を超えても同じ気持ちが沸いてくるのですから、子供達は尚更だと思います。

自衛隊や航空会社のパイロットは、勉強はもちろん出来なくてはなりませんし、体力的にもトップアスリート並みのそれが必要です。健康にも留意しなければなりません。物事を瞬時に判断する判断力も必要になってくるでしょう。英語をはじめとする語学力も必要です。そういったことをクリアした者が舞台に立てるのです。なぜそれが出来るのか、理由は一つしかありません。夢を持ち続けて努力することです。夢を持ち続け、努力の継続ができたから、達成できたのです。努力だけではどうにもならない部分はあるかもしれませんが、最後の最後まで諦めず、後悔しないようにがんばりたいものです。子供達も多くの夢を持ち、それに向かって努力を惜しまないでいてほしいです。良い方法として、目標から逆算して、いつ何をするのか？　何をスタートさせるべきなのか？　いつまでに成功させるのか？　等を、「夢の計画書」、「未来予想図」として書くと良いかもしれません。より夢が具体的になってくると思います。すっかり堅い話になってしまいましたねぇ。次はどんな話をしましょうか…。　（つづく）

※　「みんなの居場所」に関するご意見ご感想をお寄せください。（「みんなの居場所」への掲載の　可　・　不可　）